

再処理施設および廃棄物管理施設  
火山活動のモニタリング評価結果  
(2021年度報告)に対する  
第三者(火山専門家)のコメント

令和4年6月23日



日本原燃株式会社

## 第三者(火山専門家)のコメント(1/2)

2021年度 モニタリング評価結果(本資料)に対する助言		当社の対応
総括	観測データに有意な変化は認められず、対象火山の警戒レベルを「平常」とする評価で問題ない。(発言者A, B, C)	—
地殻変動	系統的な変位の累積及び急激な変位は認められず、電子基準点の基線長変化には、余効変動を超える変位の累積は認められないとする評価で問題ない。(発言者A, B, C)	—
地震活動	震源分布及び発生頻度等に大きな変化はなく、地震活動の活発化を示唆する顕著な変化は認められないとする評価で問題ない。(発言者A, B, C)	—

2021年度 モニタリング評価結果(参考情報)に対する助言		当社の対応
【参考1c】冬季の電子基準点データの一時的な判断基準超過の今後の扱い	雪による影響と整理する条件について異論はない。(発言者A, B, C)	2022年度の評価より、雪による影響と整理する条件を採用し、評価する。
	過去の冬季気象データとGNSSデータのとびの関係について更に整理し、火山活動に伴う地殻変動時に、雪によるバラつきを超えて判断基準超過が発生するか検討すると良い。(発言者A)	過去の観測データも整理し、雪による影響時に火山活動に伴う地殻変動を捉えることが出来るか検討する。
	雪の影響は、比高については前年差分を取っていることから、その翌年の整理にも影響が出る。今後の雪の影響による判断基準超過の際には、前々年差分をとるなどし、チェックすると良い。(発言者B)	前年の雪の影響により、判断基準を超過したと考えられる場合には、前々年差分で整理する等し、チェックする。
【参考1d】地殻変動解析のうち余効変動の近似精度の向上に関する検討	既往研究等に示された近似式は地震以降の余効変動全体を近似するものであり、短期間(1年)を近似するために構築されたものではないため、一概に今回の評価にどの式が良いということは難しい。(発言者B)	—

## 第三者(火山専門家)のコメント(2/2)

2021年度 モニタリング評価結果(参考情報)に対する助言		当社の対応
【参考1e】地殻変動解析における茂木モデルに基づいた試算	<p>茂木モデルを用いた計算は良い取り組みである。以下の検討を追加するとなお良い。(発言者A)</p> <p>①どの程度のマグマ供給率で判断基準の超過が発生するかのパラメータスタディ。</p> <p>②視覚的に理解しやすいため、茂木モデルによる計算結果を面的(コンターマップ等)に表示すること。</p>	<p>①判断基準を超過するマグマ供給率の検討結果を追加。(2021年度報告【参考1f】に反映済)</p> <p>②茂木モデルの計算結果による地殻変動の面的(視覚的)な図化を検討する。</p>
地震活動の判断基準	<p>地震回数について絶対的な判断基準を策定することはなかなか難しい。火山によって活発や非活発などの特徴があると思うが、他の活火山における地震回数を確認し、参考に比較検討してみてはどうか。(発言者A)</p>	<p>他の活火山における地震回数と判断基準の地震回数を参考に比較検討する。</p>
気象庁の噴火警戒レベルの判定基準	<p>気象庁の噴火警戒レベルの判定基準について、参考に入れると良い。(発言者B)</p>	<p>気象庁の噴火警戒レベルの判定基準を参考に追加。(2021年度報告【参考6】に反映済)</p>